

米食品医薬品局(FDA)発行パンフレット

2003年4月17日発行

全身CT検査について一知っておくべきこと

DHHS Publication No: (FDA) 03-0001

March 2003





原文：<http://www.fda.gov/cdrh/ct/ctscansbro.html>

PDF：<http://www.fda.gov/cdrh/ct/ctscansbro.pdf>

全身 CT 検査について知っておくべきこと

人々の内部を‘見る’、そして、癌、心臓病、その他の異常を早期に警告できるとされる技術を用いて、病院や医療用画像診断施設は全国的にこの新しいサービスを、健康を意識する人々に対して大々的に宣伝しています。全身 CT 検査による検診—これは主として、X 線画像検査法の一つを用いて顎から腰の下までの断面像を作り出して調べることをいいます。

用いられる技術は、X 線コンピューター断層撮影法 (CT)、時にコンピューター体軸断層撮影法 (CAT) と呼ばれるものです。多くの型の X 線 CT システムがさまざまな病気のスクリーニング法として推進されています。例えばマルチスライス CT (MSCT)、電子ビーム (electron beam) CT (EBCT)、別名電子ビーム・コンピューター断層撮影 (electron beam tomography: EBT) などは画像を迅速に表示し、しばしば心臓動脈のカルシウム蓄積の検査に奨励されている X 線 CT 検査です。

CT、MSCT、EBCT などはずべて、X 線を使って体をスライス状—食パンのスライスのように—to画像表示します。それぞれの画像は、体の構造を細部まで見られる非常に薄い断面に対応するものです。

CT は病気の徴候や症状をもつ患者の病気、創傷、異常の診断に極めて有益であるとされています。また CT は、治療方針の決定や指導、経過観察にも使われます。最近では、病気の症状のない健康な人々に、健康管

理の予防的で積極的な方法として流通しています。

健康な人にはベネフィットは証明されていません

予防のための行動、予期しない病気を見つける、悪いところがあれば病気が治療可能なうちに発見する、これらはすべて非常に素晴らしいことのように思われます。このようなすばらしいことは現実にはほぼありえません。実際に、現在 FDA は全身 CT を行うことが無症状の受診者に対して検査に伴うリスク以上のベネフィットがあると証明する科学的エビデンスを全くもちあわせていません。FDA は、このような医療機器の安全性と有効性を確保する責務があり、CT システムの製造元に無症状な人への全身スクリーニングの使用を推進することを禁止しています。しかしながら、FDA は、医師への規制は行っていないため、医師が適切と判断した場合には、いかなる目的であっても、機器は使用可能です。

他の診断 X 線撮影に比べ、CT 検査は被曝が比較的大きくなります。診断、治療のための CT の場合、その高被曝に関連するリスクより、ベネフィットのほうが大きく上回ります。しかしながら、無症状の人への全身 CT 検診においては、ベネフィットは疑問です。

- 健康な人と何かの疾病がある人を効果的に見分けられるのか？
- 疑わしいという結果がでた場合、利益はほとんど皆無でありながらさ

らに危険性のある侵襲的な追加検査や治療に導くのではないかと

- ‘正常’という結果であれば、それは健康であると保証できるのか？

多くの人は、CT 検査をすることが、必ずしも彼らの望む「安心感」や、病気の予防に役立つ情報を提供するものではないということを理解していません。例えば、異常が発見された場合でも深刻な病気でないかもしれませんし、正常であるとの結果は正確でないかもしれません。CT 検査は、他の医療行為と同様、ある状態を見逃すこともあり、また‘偽陽性’の場合、さらなる不必要な検査をしなければならなくなります。

全身 CT 検査を受ける際、考えなければならないこと

CT 検査は、有効な検査としての一般的基準を満たしているとは証明されていません。

- 医学専門団体は、無症状の人に対する CT 検査を支持していません。
- 肺癌、大腸癌などの特定の疾患におけるハイリスクの個人に対する CT 検査についても研究中ですが、結果はまだわかっていません。
- CT 検査による放射線被曝は、その人の生涯において後の発癌の可

能性のわずかな上昇と関連がある可能性があります。

■ FDA はウェブサイトですべての全身 CT 検査に関するさらに詳しい情報を提供しています：

www.fda.gov/cdrh/ct/ 「FDA: 全身 CT について1(日本語訳)」

FDA の推奨

CT 検診を受ける前に、リスクとベネフィットの可能性を慎重に検討、考慮の上、主治医と相談してください。

U.S. Department of Health
and Human Services
U.S. Food and Drug Administration
5600 Fishers Lane
Rockville, MD 20857

野中 希 翻訳 / 林 正樹(血液・腫瘍科) 監修
一般社団法人 日本癌医療翻訳アソシエイツ
(JAMT for Cancer)